

令和元年BSCフォローアップシート（年度末評価用）

病院(所属)名:小児保健医療センター

区分	シナリオ	戦略的目標	BSCの当初目標設定内容					年度未進捗状況		評価・今後の対応	
			業績評価指標	前年度実績	数値目標	数値目標実績	5段階評価	主なアクションプラン	アクションプラン実績		
顧客の視点		難治・慢性疾患児への質の高い医療サービス・全県型医療の提供	重症患児数 (※超重症児数+準超重症児数)	790人	860人	710人	B	1	呼吸ケアサポートチーム活動	[重症患児数 △80人] 呼吸ケアサポートチーム活動 呼吸ケアサポートチームラウンド…127件 認定看護師のコンサルテーション…41件←52件	重症患児数は前年度から減少したものの、ケアサポートのラウンド数は増えており、きめ細かな対応に努めている。今後も地域の医療機関等との連携により、一般医療機関で対応が困難な重度障害児を受入れながら、これまで以上の専門的医療ケアの提供を図っていく。
		慢性疾患患者の救急体制強化	時間外慢性疾患患者救急受入れ応需率 (※患者受入件数/受入依頼件数)	98.7%	100.0%	98.9%	B	2	救急受入れのための病床管理	[応需率 +0.2] 時間外患者受入件数…278件←307件 うち入院受入件数…130件←146件 受入依頼件数…285件←311件	個室が満床で受入れができないケースが7件あった。可能な限り、ベッドコントロールで個室を確保のうえ、救急の受け入れに努める。
		政策医療の提供	精密健康診断実施数	1,431件	1,400件	1,470件	A	3	直接受診者の受入れ 市町担当者説明会の実施 広報活動の充実	[健診実施数 +39件] 保健指導部受付…1,075件、直接受診者…395件 5/30/6/6/6/7乳幼児精密健診従事者研修会(参加者延160人)	実施数は昨年実績とほぼ同じである。今後も市町との連携を図るとともに、必要とされる精密健康診断を実施し、障害の早期発見と除去、軽減に努める。
		地域医療機関等との連携強化	びわ湖メディカルネット患者登録者数	230件	260件	318件	S	4-1	びわ湖メディカルネットを活用した連携病院・診療所への患者情報の提供	[登録患者数 +88件]	びわ湖あさがおネットの登録患者は着実に増加しており、紹介率・逆紹介率も上昇している。今後も地域医療機関との相互の情報共有による連携を強化していくとともに、広報やホームページ等による情報発信を強化のうえ、紹介率向上につなげる。
		地域医療機関等との連携強化	紹介率	44.9%	47.0%	48.9%	A	4-2	連携病院・診療所への患者情報の提供	紹介患者数…2,241人(+69人)	
		地域医療機関等との連携強化	逆紹介率	48.6%	45.0%	53.6%	A	4-3	広報活動の充実	逆紹介患者数…2,513人(+90人)	
在宅療養の支援		地域の療育機関等への支援	児童発達支援センター等への派遣回数	131回	133回	130回	B	5	地域への療育技術指導	[派遣回数 -1回] (3月開催の3回が中止) 指導児童数 727人←712人	新型コロナウイルスの影響により、派遣先の療育教室が中止されたため、回数が減少した。今後も、地域の療育教室と調整のうえ、指導内容を見直ししながら、派遣事業を実施する。
		在宅療養の支援	平均在院日数	8.7日	9.0日	9.5日	B	6-1	医療技術の向上	[平均在院日数 +0.8日] 整形外科…28.7日、小児科…6.7日、眼科…1.8日、耳鼻いんこう科…4.3日、リハビリ科…11.9日 レスパイト受け入れ件数 △58件 レスパイト入院患者数…3,255人←3,547人 1日平均入院患者数…8.9人←10.1人	高度な手術治療の増加により、平均在院日数が増加したもので、整形外科と耳鼻いんこう科以外の平均在院日数は増加していない。今後も最適な入院治療により、平均在院日数の短縮を図るとともに、レスパイト入院の受け入れによる在宅療養の支援に努める。
財務の視点		病床利用率の向上	病床利用率	67.2%	77.0%	70.3%	B	7-1	手術件数の増 計画的な検査・リハビリ入院の促進 レスパイト入院の弾力的運用	[病床利用率 +3.1] (手術件数 +21件) 580件←559件 (常勤医師 +2人) 20人←18人 整形+1、リハ+1	整形外科の入院患者は増加したものの、小児科の入院患者の減少により、病床利用率の大きな改善には至らなかった。引き続き、診療体制の充実を図り、リハビリ専門医や嚥下専任の言語聴覚士による機能訓練入院を促進のうえ、病床利用率の改善につなげていく。また、入院患者数の月変動が大きいことから、レスパイトや検査入院の弾力的な運用による平準化を図りながら、病床利用率の更なる改善に努める。
		財務管理の徹底	経常収支比率	95.7%	98.9%	95.2%	B	8	診療件数の増 診療費の確実な収納 経費の節減	[経常収支△158.1百万円] (損失拡大△18.4百万円) (経常収益 △2百万円、経常費用 +8百万円) (医業収益 +35百万円、医業費用 +12百万円) (入院患者数 +1,221人、外来患者数 △2,019人)	入院収益の増加で医業収益は増加したものの、新元号に伴うシステム対応や消費税率の変更による経費の増加、また、はじめて外来患者数が減少に転じたことにより、決算では昨年度よりも損失が拡大した。今後の経営改善を進めていくためには、より的確な収支構造分析に基づき、方策を講じる必要があることから、原価管理会計による効率的な運営を図りながら、診療収益の確保と経費支出の節減に努める。
内部プロセスの視点		職員満足度の向上	現在の仕事に充実感や達成感を感じている職員の率(肯定的回答率)	65.0%	75.0%	71.7%	B	9	職員提案の募集および採用 面接の実施 チーム医療・多職種連携の推進	[充実感・達成感のある職員の割合 +3.3] (医師+26.7%、医療技術+5.4%、看護師△1.5%、事務+27.8%) 職員意識調査(回収率…84.0%、184人)	日々、改善や工夫を意識して仕事に取り組んでいる職員の割合は高い。看護職においては夏期の業務過多から、充実感がやや低下したと思われるが、総じて職員の充実感、達成感は上昇している。引き続き、職員の意見や提案を求めながら、全職員の参画による改善の取り組みを進め、さらに成果を上げることによって、達成感を高めていく。
		効率的な職場環境づくり	職員一人あたりの時間外勤務時間数	17.7h	16.2h	19.8h	B	10	院内会議、研修等の時間内開催 適正な労務管理 弾力的な人員配置 応援体制の構築 業務効率化のための環境整備	[一人あたりの月平均時間数 +2.1h] 医師 (43.2h←34.7h) 看護師 (16.8h←16.8h) 医療技術 (16.5h←14.5h) 事務等 (19.0h←14.2h)	医師宿直振替運用の変更、育休取得職員の増加、夏期の業務量の増加等により、時間外勤務が増加した。適切な人員配置による労働負担の平準化や医師事務作業補助者の増員による医師の労働負担の軽減を図るとともに、さらに効率的、効果的な業務方法への改善を推進しながら、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。
学習と成長の視点		臨床研究活動への支援	論文発表数	30本	20本	20本	B	11	補助数の増	[論文数 △10] 小児科…11本 整形外科…5本 耳鼻いんこう科…3本 検査科…1本	昨年度実績より減少したが、目標件数は達成した。引き続き、研究活動を支援のうえ、専門医療技術および当センター認知度の向上を図るとともに、人材の確保につなげていく。
		教育の充実	専門研修派遣者数	229人	150人	297人	S	12	研修参加の奨励	[派遣者数 +68人] 診療局…37人 看護部…178人 保健指導部…21人 療育部…58人 事務局…3人	計画的な研修参加により目標件数を上回った。今後も専門研修などへの参加を支援し、専門知識を備えた人材の育成に努める。